

米子市立図書館所蔵の往来物資料について

—目的別と出版地域別の分類整理—

Investigation report on "OURAIMONO" documents of Yonago City Library possession:

A study based on the publication place and the purposeful classification analysis

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

米子市立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告した。和本のみの目録はなく、『田村文庫図書目録』¹⁾『須山文庫図書目録』²⁾『鶴田文庫 寄贈目録』³⁾『佐藤文庫 図書目録』⁴⁾「中津尾文庫 資料一覧表（整理中）」⁵⁾により調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。総数では、16本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別の分類では、教訓科往来が3本、社会科往来が1本、語彙科往来が3本、消息科往来が1本、地理科往来は所蔵がなく、歴史科往来が1本、産業科往来は所蔵がなく、理数科往来が2本、女子用往来が5本という結果であった。出版地域別では、江戸が4本、京都が3本、大坂が1本、不明が8本という結果であった。

山陰地域の往来物資料は『往来物解題辞典』にも記載が少なく、調査の空白地帯であったが、本稿において、米子における近世期版本の往来物資料の所在を確認できた。資料の一部については、書誌調査結果に加えて画像でも紹介した。今後、他地域との偏在状況や格差についても検討可能となり、基盤となる貴重な調査報告であるといえよう。

キーワード：山陰、米子、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

1 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のもので出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の調査研究⁶⁾を発端に、東北地

域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象⁷⁾を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、山陰地域の調査⁸⁾も開始しているが、本稿では、鳥取の米子市立図書館所蔵の資料について報告する。

2 調査方法

従来すすめてきた所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地域別に分類整理⁹⁾して、地域ごとの特徴に

*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

ついて今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的に従来調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の記載内容については、『国書総目録』¹⁰⁾ および『古典籍総合目録』¹¹⁾ と『往来物解題辞典 解題編』⁹⁾ によって確認検討した。

3 調査結果

和本の目録はなく、『田村文庫図書目録』¹⁾ 『須山文庫図書目録』²⁾ 『鶴田文庫 寄贈目録』³⁾ 『佐藤文庫 図書目録』⁴⁾ 「中津尾文庫 資料一覧表 (整理中)」⁵⁾ により調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

田村文庫¹⁾ は、田村純一氏から寄贈された、和漢の書籍666冊を指すが、幕末の米子市民の教養の有様を示している。内容は、田村氏のご先代の方々が勉強された、歴史の本、儒教仏教の本、書画の手本、謡本、和歌俳譜の本、茶の本、物語読物の本など、多方面にわたっている。その中に江戸時代の版本である、5本の往来物資料が確認できた。書名のみを紹介するが、『南朝忠臣往来』『百人一首一夕語』『女四書』『五体千字文』『小学算註』が所蔵されていた。

須山文庫²⁾ は、十代にわたる旧家で、医術を生業として栄えた須山家の蔵書である。医術に関する文献はもちろん、米子地方の知識階級がどのような書物を読んでいたのか、という読書履歴や教育背景を知るのに重要な資料群といえる。所蔵内容は、医学関係書が一番多く、江戸時代から明治時代にかけての医学の変転の模様をうかがい知ることができる。漢詩文の本、経書、歴史書や書画の本も多い。その中に江戸時代の版本である、3本の往来物資料が確認できた。書名のみを紹介するが、『御成敗式目』『後家流女用文章姫鑑』『高砂百人一首錦文庫』が所蔵されていた。

鶴田文庫³⁾ には、海運関係の文献資料が多く、往来物資料の所蔵が確認できなかった。

佐藤文庫⁴⁾ には、1本の往来物資料が確認できた。『合書童子往来』という資料が所蔵されていた。

中津尾文庫⁵⁾ は、現在、整理中であり、資料一覧表を閲覧させていただき、調査を行った。江戸時代版本の往来物資料は、7本が確認できた。書名のみを紹介するが、『女教訓』『算法闕疑抄』『庭訓往来抄』『文化新童子往来』『画引十体千字文』『千字文』『童訓往来新大成』が所蔵されていた。

総数では、16本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が3本、社会科往来が1本、語彙科往来が3本、消息科往来が1本、地理科往来は所蔵がなく、歴史科往来が1本、産業科往来は所蔵がなく、理数科往来が2本、女子用往来が5本という結果であった。出版地域別の分類では、江戸が4本、京都が3本、大坂が1本、不明が8本という結果であった。

出版地域別では、地理的に近い関西圏からの流入が、京都と大坂、合わせて4本であり、江戸の4本と同数という結果であった。不明が8本と多いため、傾向をみることは慎重でなければならないが、関西圏からの影響が大きいとは言い難い状況といえそうである。

4 目的別分類について

教訓科往来に分類した資料は、『合書童子往来』〈資料コード110678968〉¹²⁾、『文化新童子往来』〈資料コード110694627〉、『童訓往来新大成』〈資料コード110694635〉の3本である。

社会科往来に分類した資料は、『御成敗式目』〈資料コード110705555〉の1本である。

語彙科往来に分類した資料は、『五体千字文』〈資料コード110698099〉、『画引十体千字文』〈資料コード110694759〉、『千字文』〈資料コード11694882〉の3本である。

消息科往来に分類した資料は、『庭訓往来抄』〈資料コード110694460〉の1本である。

地理科往来は所蔵がなく、歴史科往来に分類した資料は、『南朝忠臣往来』〈資料コード110673407〉の1本である。

産業科往来は所蔵がなく、理数科往来に分類した資料は、『小学算註』〈資料コード11673092〉、『算法闕疑抄』〈資料コード110694742〉の2本である。

女子用往来に分類した資料は、『百人一首一夕語』〈資料コード110696333〉、『女四書』〈資料コー

ド110672987)、『後家流女用文章姫鑑』(資料コード110699048)、『高砂百人一首錦文庫』(資料コード110702107)、『女教訓』(資料コード110694510)の5本という結果であった。

目的別分類では、最も多いのが女子用往来資料の5本であった。総数16本における割合は、約31.3%を占めている。次に教訓科往来資料と語彙科往来資料が3本で、それぞれ約18.8%となる。理数科往来資料は2本で12.5%、社会科往来資料、消息科往来資料、歴史科往来資料は、1本で約6.3%という割合であった。地理科往来資料と産業科往来資料は、所蔵が確認できないので0%との結果と整理できる。

調査済みの地域である、東北地域⁶⁾や北陸地域⁷⁾の調査結果によれば、『庭訓往来』に代表される消息科往来の占める割合が大きい地域が多いという傾向にあった。たとえば、東北地域の青森の弘前市立図書館と山形の山形教育資料館では、消息科往来が最多であった。また日本海沿岸の山形の酒田光丘文庫でも女子用往来に次いで消息科往来が多かった。北陸の石川県立図書館は、突出して消息科往来資料が多く、総数34本のうち、20本が消息科往来であり、全体の約59%を占めていた。

山陰の鳥取県立図書館での調査でも、消息科往来が多いことが確認⁸⁾できたが、同じ鳥取県でも、今回の米子市立図書館では、消息科往来資料が1本と少数であったことが注目されるであろう。

米子市立図書館は、所蔵数が16本であったが、目的別分類における所蔵資料は、女子用往来資料が最多という偏在が確認できた。地理科往来資料と産業科往来資料は所蔵がなかったが、少数とはいえ、教訓科往来

資料、語彙科往来資料、理数科往来資料、社会科往来資料、消息科往来資料、歴史科往来資料と多種類の所蔵が確認できたといえよう。

【グラフ1】は、目的別分類資料数を近隣の鳥取県立図書館、島根県立図書館との比較を参考までにグラフ化して提示した。①教訓科往来 ②社会科往来 ③語彙科往来 ④消息科往来 ⑤地理科往来 ⑥歴史科往来 ⑦産業科往来 ⑧理数科往来 ⑨女子用往来の偏在の状況が知られるであろう。

5 出版地域別分類について

出版地域別の分類では、江戸が4本、京都が3本、大坂が1本、不明が8本という結果であった。

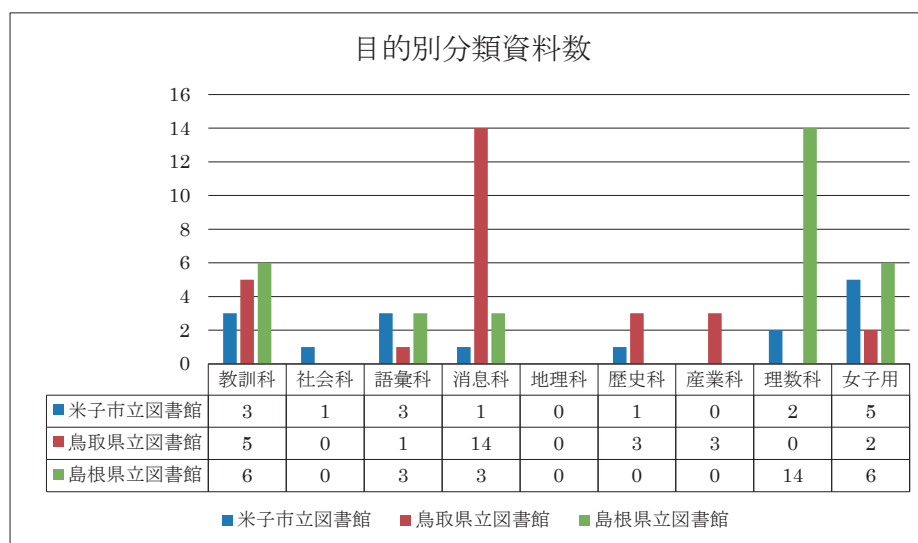
江戸の出版である資料は、『御成敗式目』『御家流女子用文章姫鑑』『画引十体千字文』『童訓往来新大成』の4本である。

京都の出版である資料は、『百人一首一夕語』『女四書』『女教訓』の3本である。

大坂の出版である資料は、『五体千字文』の1本である。

出版地域が特定できず、不明とした資料は、『南朝忠臣往来』『小学算註』『高砂百人一首錦文庫』『算法闕疑抄』『庭訓往来抄』『文化新童子往来』『千字文』『合書童子往来』の8本である。

総数16本の資料のなかで、出版地域が特定できない資料が8本と最多であった。特定できた資料のなかでは、江戸が4本と最多で、京都3本、大坂1本であり、京都と大坂を合わせると4本となり、江戸と拮抗することが知られた。傾向をみるだけの根拠に乏しい



〔グラフ1〕

が、地理的に近い関西からの影響が大きいとは必ずしもいえないようである。

隣県の島根県立図書館所蔵資料の出版地域別分類整理⁸⁾では、総資料32本のうち、江戸が10本、京都が3本、大阪が8本で不明が11本であった。江戸からの影響がみられると思われたが、鳥取県立図書館の調査結果⁹⁾からは、島根とは相違して、興味深い結果が確認された。

鳥取県立図書館所蔵資料を出版地域別の分類では、総資料28本のうち、最多は京都の10本であり、次いで江戸の6本、大阪の3本であり、残りの9本が出版地不明であった。京都と大阪を合わせて関西圏とすると13本となり、江戸の6本の2倍以上という割合になるため、距離的に近い関西からの影響が大きかったことが予想されたのである。しかしながら、それぞれの地域を分けて考えると、江戸の出版は、大阪よりは多い。不明が9本存在することを合わせて考えてみると、必ずしも江戸文化圏からの影響が少ないわけではなかった。

【グラフ2】は、出版地域別の資料数を近隣の鳥取県立図書館と島根県立図書館との比較を参考までにグラフ化して提示した。

近世期の後半になると、関西圏だけでなく、江戸での出版が隆盛する。距離的な影響だけでなく、出版文化の拡大や流通といった要因も考えておく必要があると思われた。今回の米子市立図書館における調査では、所蔵資料数が多くないため、傾向をみることには慎重でなければならないが、それぞれの地域特性を考える上では、島根、鳥取に続いて、貴重な報告といえよう。

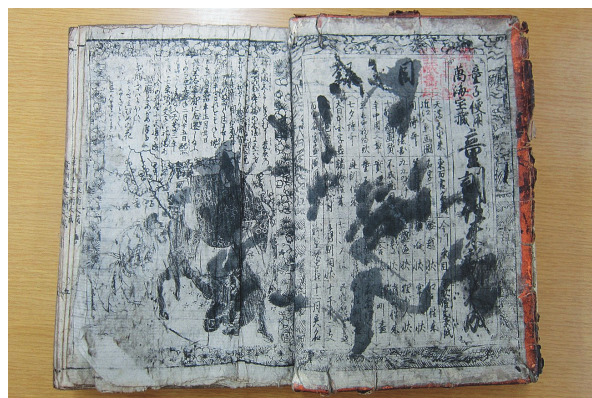
6 資料紹介

6-1 『童訓往来新大成』

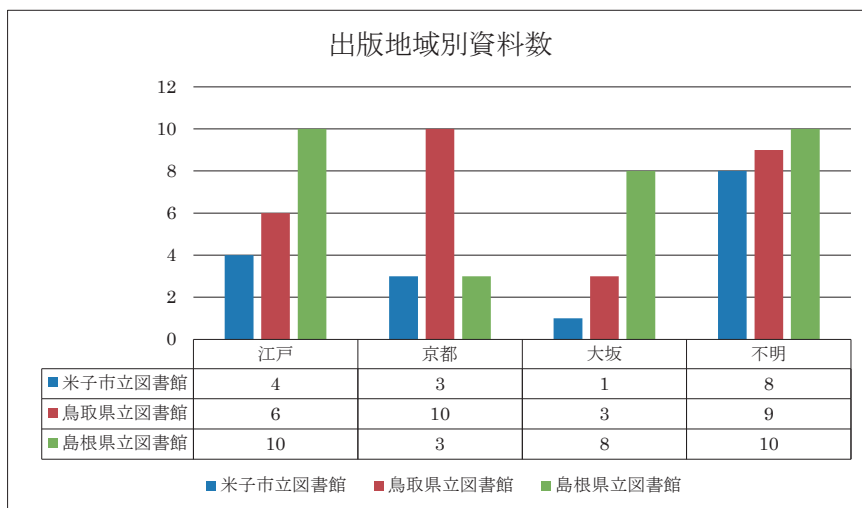
教訓科往来に分類できる『童訓往来新大成』【画像1】は、中津尾文庫に所蔵されている資料である。表紙は茶色で、題箋はあるが変色して判読不能であった。縦25.6cm、横18.0cm、厚さ3.5cmの資料である。

表紙裏に「童子使用 萬海宝蔵 同訓往来新大成」と記載があるように子供用の往来物資料である。「目録」として「天満宮由来」「近江八景画図」「年中用文章」「七夕詩歌」「七ついろは」「實語教」「庭訓往来」「消息往来」「腰越状」「十二月実名」等11行4段にわたって列挙がみられる。

柱書は「童訓往来新大成」と丁数が表示されている。全127丁（最終丁が127丁裏）。裏表紙裏部分に「天保五年甲午孟春三刻発行」「皇都書房」とあり、下段に7軒の書肆が確認でき「菊屋七郎兵衛、菱屋治兵衛、天王寺屋嘉兵衛、丁子屋久郎右衛門、枳屋勘兵衛、吉野屋勘兵衛」とあるが、最終の書肆は「〇〇屋治兵衛」と判読不能であった。



【画像1】米子市立図書館蔵『童訓往来新大成』（表紙裏～1丁表）



【グラフ2】

6-2 『南朝忠臣往来』

歴史科往来に分類できる『南朝忠臣往来』【画像2】は、田村文庫に所蔵されている資料である。表紙は青色で、題箋が「南朝 忠臣往来 全」とある。表紙裏と1丁表部分に「序」があり、縦25.0cm、横17.6cm、厚さ1.4cmの資料である。柱書は、「忠臣往来」と丁数が記載されている。全65丁。65丁裏に「南朝忠臣往来終」とあり、裏表紙裏に手書きで「田村治平 主」と持ち主の署名が確認された。



【画像2】米子市立図書館蔵『南朝忠臣往来』（表紙）

6-3 『御家流 女用文章姫鑑』

女子用往来に分類できる『御家流 女用文章姫鑑』【画像3】は、須山文庫に所蔵されている資料である。表紙は水色で、題箋は現存していない。ただし、題箋は当初は存在したと思われ、剥がれた痕跡がある。小型で、縦17.0cm、横12.0cm、厚さ1.0cmの資料で、全48丁。

表紙裏に三行の分かち書きで記載がある。「御家流」、中央に大きく「女用文章姫鑑 全」とあり、振り仮名が「をんなようふんしやうひめかがみ」と付されている。三行目に「東都書舗 文好堂梓」と見える。柱書きはない。

1丁表は「五節句歌」とあり、正月の装い、美しい



【画像3】米子市立図書館蔵『御家流 女用文章姫鑑』（3丁裏～4丁表）

和服姿の女性の画がある。2丁裏から「正月 初はるの文」と続く最終丁の48丁裏に「男蝶」「女蝶」「あふぎ」「色紙」と折り方が記されている。裏表紙裏に5行二段にわたって、10件の書名宣伝がある。「嘉永新刻 平安人物志 小本一冊」「儒流姓名録 小本一冊」「学問源流 那波魯堂著 大本一冊」「風流文雅双六 吳月溪画 彩色一枚」「新編武功双六 道具付一枚」、最期の一行に大きく「三條通柳馬場東角 皇都書林 尚書堂 堺屋仁兵衛」と出版についての記載が確認できる。

6-4 『合書童子往来』

教科科往来に分類できる『合書童子往来』【画像4】は、佐藤文庫に所蔵されている資料である。表紙は、オレンジ色。題箋も存在するが、「合書童」の三字のみ判別でき、詳細は判別不能である。しかし、当初から本来別々の書物を合冊して作成された「合書」であったことが知り得る。

「商売往来」「実語教」「童子教」「小野篁歌尽」「今川状等」「庭訓往来」を合わせて学習用に編集されたものである。損傷が激しく、出版地記載の最終丁も確認できない。縦23.0cm、横16.0cm、厚さ2.0cmの大部な資料である。序が10丁、商売往来7丁、実語教4丁、童子教9丁、小野篁歌尽9丁、今川状・腰越状他48丁、庭訓往来34丁の計全114丁。

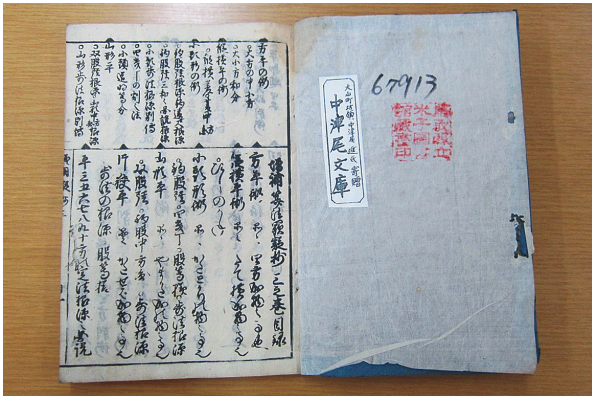


【画像4】米子市立図書館蔵『合書童子往来』（表紙裏～1丁表）

6-5 『算法闕疑抄』

理数科往来に分類できる『算法闕疑抄』【画像5】は、中津尾文庫に所蔵されている資料である。表紙は青色。題箋があり、「書頭 算法闕疑抄三」と書名が記載されていることが確認できる。1丁目1行に「増補 算法闕疑抄 三之卷 目録」とある。三冊目のものであるが、他は所蔵が確認されず欠本している。最終丁にも出版地等の記載がない。

縦23.0cm、横16.0cm、厚さ1.0cmである。柱書に「算
闕疑抄三」「目一」「目録」が2丁、本文「一」～
「六十五」とあり、65丁の全67丁の資料である。



【画像5】米子市立図書館蔵『算法闕疑抄』（表紙裏～1丁表）

7 まとめにかえて

米子市立図書館に所蔵されている近世期版本の往
来物資料についての調査概要を報告した。『田村文庫
図書目録』¹⁾『須山文庫図書目録』²⁾『鶴田文庫 寄贈
目録』³⁾『佐藤文庫 図書目録』⁴⁾『中津尾文庫 資料
一覧表（整理中）』⁵⁾により調査したが、文献調査の
結果、総数では16本の近世期版本の往来物資料が確認
された。

目的別に分類してみると、教訓科往来が3本、社会
科往来が1本、語彙科往来が3本、消息科往来が1
本、地理科往来は所蔵がなく、歴史科往来が1本、産
業科往来は所蔵がなく、理科科往来が2本、女子用往
来が5本という結果であった。出版地域別の分類で
は、江戸が4本、京都が3本、大坂が1本、不明が8
本という結果であった。

山陰地域の往来物資料は『往来物解題辞典』でも記
載が少なく、調査の空白地帯であったが、本稿におい
て、米子における近世期版本の往来物資料の所在を確
認し、整理することができた。資料の一部について、
書誌調査結果に加えて画像でも紹介した。

今後、他地域との偏在状況や格差についても検討可
能となり、基盤となる貴重な調査報告であるといえよ
う。残された課題を引き続き検討することとしたい。

注

- 1) 『田村文庫図書目録』（鳥取県立米子図書館、1967年）による。
- 2) 『須山文庫図書目録』（鳥取県立米子図書館、1968年）による。

- 3) 『鶴田文庫 寄贈目録』（鳥取県立米子図書館、1981年）による。
- 4) 『佐藤文庫 図書目録』（鳥取県立米子図書館、1980年）による。
- 5) 「中津尾文庫 資料一覧表（整理中）」（米子市立図書館）による。
- 6) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」（『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月）、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」（『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月）、拙稿「往来物の「女ことば」について」（『関西文化研究叢書 10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月）、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月）、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月）、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月）等参照。拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月）、拙稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月）、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月）、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月）、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月）等参照。
- 7) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月）、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年3月）、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物—横山家文書からの報告—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月）、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年3月）、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—目的別の観点から—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月）、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—出版地域別の観点から—」（『弘前大学教育学部研究紀要』第

- 121号、2019年3月)、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について―特殊文庫における調査報告―」(『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月)等参照。
- 8) 拙稿「島根県立図書館所蔵の往来物資料について―目的別と出版地域別の分類整理―」(『弘前大学教育学部研究紀要』第125号、2021年3月)、拙稿「鳥取県立図書館所蔵の往来物資料について―目的別と出版地域別の分類整理―」(『弘前大学教育学部研究紀要』第126号2021年10月)等参照。
- 9) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 10) 『国書総目録 第1～9巻』(岩波書店、1963～1976年)参照。
- 11) 『古典籍総合目録 第1～3巻』(岩波書店、1990年)

参照。

- 12) 資料コードは米子市立図書館での分類No.である。複数巻にまたがる資料は、便宜上、参考として1巻の資料コードを示した。

【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、米子市立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究 (C) 課題番号19K00620) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2021.12.15 受理)